

第45回 燃料デブリ取り出し専門委員会 議事要旨

日 時：令和5年12月13日（水） 16:00～18:00

場 所：原子力損害賠償・廃炉等支援機構 Web 会議システム

1. 東電エンジニアリング状況について

東京電力から2号機PCV内部調査・試験的取り出し作業の準備（ロボットアームを補完する装置の準備について他）について説明した。

専門委員からの主な意見は以下のとおり。

- X6ペネトレーションは今後も活用が見込まれることから、堆積物をできるだけ除去し、アクセスルートを広く確保するよう作業を進めることが望ましい。
- PCVの内部状況を把握する為、テレスコ式アームでも可能な限り内部情報を取得できるよう工夫することが重要である。
- 取り出したサンプルを取り扱う作業員の被ばく量をしっかりと管理し、安全を最優先で作業を進めることが重要である。

2. 次期研究開発計画について

NDF から次年度廃炉研究開発計画、研究開発中長期計画、技術課題のまとめ、次年度一件一葉の骨子（案）について説明した。

専門委員からの主な意見は以下のとおり。

- 1F廃炉に係る研究開発計画は、不確かな部分が多く存在する中で策定するものであることから、計画どおり進展しないこと等も考慮に入れて、柔軟に軌道修正できる計画を策定することが重要である。
- 必要な研究開発計画が全て網羅的に策定されているか現状では分かりにくい。国の補助金で行うもの、自主で行うものなどの整理を分かりやすくしていくことが重要である。
- 状態把握ができていない中で燃料デブリ取り出し用ツールを開発する状況となっているため、全体像をきちんと押さえる為の内部調査に注力し、状況把握を進めることが重要である。
- RFI（Request For Information）はシーズを集めることに関して有効だが、集めたシーズをニーズとしっかり合致させることが重要である。
- 燃料デブリ取り出しに関する研究開発と廃棄物対策に関する研究開発について、情報交換する場を設けて全体として検討を進めることが重要である。

以上